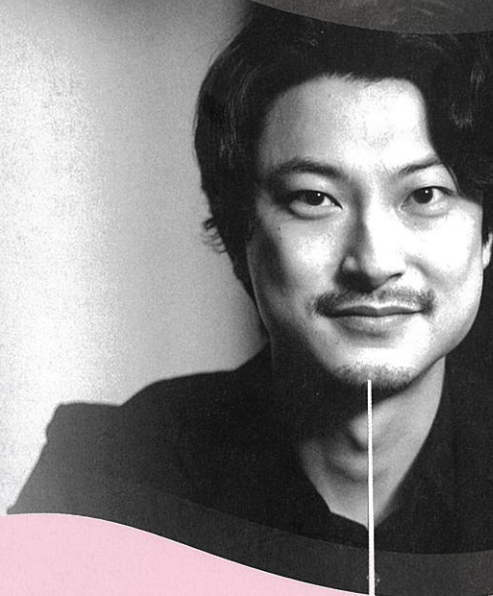


SONORITÉ

そのりて

神奈川フィルハーモニー管弦楽団

2023-2024シーズン



県民名曲シリーズ

第18回

2024年 1月6日(土)

開演14:00 開場13:15

神奈川県民ホール 大ホール

県民名曲シリーズ 第18回

神奈川県民ホール 大ホール
2024.1.6 日

指揮 出口 大地 Conductor Daichi Deguchi

ヴァイオリン 外村 理紗^b Violin Risa Hokamura

ピアノ 清塚 信也[#] Piano Shinya Kiyozuka

首席ソロ・コンサートマスター 石田 泰尚 Principal Solo Concertmaster Yasunao Ishida

R. シュトラウス (1864-1949) / 交響詩「ドンファン」 Op.20 (19分)

Richard Strauss / Don Juan, Op.20

メンデルスゾーン (1809-1847) /

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64^b (28分)

Felix Mendelssohn / Violin Concerto in E minor, Op.64

I. Allegro molto appassionato

II. Andante

III. Allegretto non troppo – Allegro molto vivace

***** [休憩] Intermission *****

グリムカ (1804-1857) / 歌劇「ルスランとリュドミラ」より序曲 (5分)

Mikhail Glinka / Ruslan and Lyudmila Overture

ラフマニノフ (1873-1943) /

ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 Op.18[#] (33分)

Sergei Rachmaninoff / Piano Concerto No.2 in C minor Op.18

I. Moderato

II. Adagio sostenuto

III. Allegro scherzando

※演奏時間は目安です。

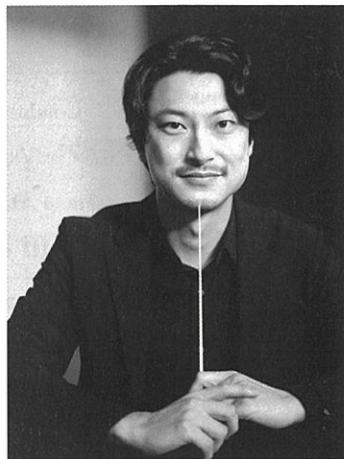
主催:公益財団法人神奈川県民ホール管弦楽団

共催:神奈川県民ホール(指定管理者:公益財団法人神奈川県芸術文化財団)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力:日本音楽財団 特別協力:日本財団





©hiro.pberg_berlin

指揮 出口 大地

Conductor Daichi Deguchi

第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ特別賞。2021年にはベルリン放送交響楽団の公演にてヴラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務める。

ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、2022年7月、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会にて日本デビューを飾る。その後京都市響、読売日本響、仙台フィル、日本センチュリー響、群馬響、神戸室内管、新日本フィル、東京都響と立て続けに共演し、今後も日本各地のオーケストラへのデビューが決定している。

大阪府豊中市生まれ。関西学院大学法学部卒業後、東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)卒業。2023年3月ハンスアイスラー音楽大学ベルリンオーケストラ指揮科修士課程修了。指揮を広上淳一、田代俊文、三河正典、下野竜也、クリスティアン・エーヴァルト、オペラ指揮をハンス・ディーター・バウムの各氏に師事。またネーメ、パーヴォ、クリスティアン・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、ヨハネス・シュレーフリ、井上道義、沼尻竜典各氏らのマスタークラスにオーディションを経て招待され、薫陶を受ける。

公式ホームページ <https://daichideguchi.wixsite.com/daichideguchi>



©Jiyang Chen

ヴァイオリン

外村 理紗

Violin Risa Hokamura

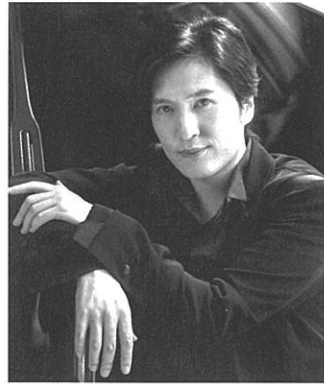
3歳よりヴァイオリンを始める。

17歳で第10回インディアナポリス国際ヴァイオリンコンクール第2位、同年のYoung Concert Artists International Auditionで優勝。

スラットキン、大友直人、広上淳一、山田和樹らの指揮のもと、インディアナポリス響、東京フィル、東京響、新日本フィル、神奈川フィル、札幌響、広島響などと共演している。

これまでに小林健次、原田幸一郎、神尾真由子、小栗まち絵、ルーシー・ロバート、チョーリャン・リンの各氏に師事。現在、マンハッタン音楽学校にフルスカラシップ生として在籍している。

日本音楽財団保有ストラディヴァリウス1715年製ヴァイオリン「ヨアヒム」使用。



©Kunito Watanabe

ピアノ

清塚 信也

Piano Shinya Kiyozuka

5歳よりクラシックピアノの英才教育を受ける。中村紘子、加藤伸佳、セルゲイ・ドレンスキーに師事。桐朋女子高等学校音楽科(共学)を首席で卒業、国内外のコンクールで数々の賞を受賞。

人気ドラマ「のだめカンタービレ」他作品で吹き替え演奏を担当し脚光を浴びる。

知識とユーモアを交えた話術と繊細かつダイナミックな演奏で全国の聴衆を魅了し続け、年間100本以上の演奏活動を展開。作曲家としてドラマ・映画・舞台の劇伴やテーマ曲を手掛ける。

ピアニストとして次々と新しいフィールドへの挑戦を続け、常に話題と注目を集めている。

日本音楽財団

NIPPON MUSIC FOUNDATION

日本音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として、弦楽器名器の貸与事業を行っています。保有する世界最高クラスの弦楽器21挺(ストラディヴァリウス製ヴァイオリン15挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、ガルネリ・デル・ジェス製ヴァイオリン2挺)を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、これら世界の文化遺産ともいわれる名器を次世代に継承するための保守・保全を行っています。また、楽器被貸与者による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。

日本音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。



ストラディヴァリウス 1715年製ヴァイオリン 「ヨアヒム」

この楽器は、19世紀ハンガリー出身の名ヴァイオリン奏者ヨーゼフ・ヨアヒム(1831~1907)が所有していたストラディヴァリウス1715年製ヴァイオリン3挺の内の1つである。また、ヨアヒムからヴァイオリンのレッスンを受けていた彼の兄弟の孫娘アディラ・ダラーニ(d'Aranyi)に遺贈されたことから「ヨアヒム=アラニー」(Joachim-Aranyi)という名前でも知られている。-

日本音楽財団が購入するまでは、アディラの遺族によって代々受け継がれてきた。

R. シュトラウス / 交響詩「ドンファン」 Op.20

リヒャルト・シュトラウス(1864～1949)といえば、フランツ・リストが創始した「交響詩」と、リヒャルト・ワーグナーによる「楽劇 Musikdrama」を受け継ぎ、独自に発展させた作曲家として知られている。だが天才的なホルン奏者だった父の影響で若い頃は、フェリックス・メンデルスゾーンとロベルト・シューマンのような保守的な音楽を模範としていた。例えば1887～1888年にかけて作曲されたヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調では、メンデルスゾーンからの影響が明らかだ。同じ頃に書かれた本作も同様で、木管楽器の和音を刻む上で駆け抜ける弦楽によるメロディは、メンデルスゾーンの《イタリア》交響曲をモデルにしているのだろう。

題材となったドンファン伝説は、モーツァルトのオペラ『ドン・ジョヴァンニ』などを通して知られているが、リヒャルト・シュトラウスがもとにしたのはニコラウス・レーナウ(1802～1850)による詩である。こちらのドンファンは理想の女性を追い求める人物なのだが結局そうした女性に出会うことが出来ず、失望のなか決闘で死を迎える……。物語というよりも、この人物そのものを音楽で描こうとしたのが本作だ。構成はソナタ形式がもとになっているが、提示部が肥大化して全体の半分以上の長さを占めている。展開部は短めで、再現部は提示部の最初と最後だけが回帰する。

メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 Op.64

フェリックス・メンデルスゾーン(1809～1847)とリヒャルト・シュトラウスの共通点として、自作以外も振る優れた指揮者だったことも忘れてはいけない。この協奏曲はメンデルスゾーンがカペルマイスターとして指揮をしていたライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団におい

て、コンサートマスターを担ったフェルディナンド・ダヴィッド(1810～1873)のために書かれた。1838～1844年にかけて6年越しで完成。初演後に改訂したバージョンが、今日まで広く演奏されている。切れ目なく続く3楽章構成だ。

第1楽章はソナタ形式。冒頭からすぐに独奏ヴァイオリンが登場したり、独奏者による無伴奏で披露するカデンツァを展開部終わりに移したりと、ロマン派らしい特徴もみられるが、それ以外の構成は律儀なほどの古典派的だ。この二重性がメンデルスゾーンならではの魅力といえる。

第2楽章は三部形式による緩徐楽章。メンデルスゾーンのピアノ曲「無言歌集」に登場しそうな歌心に溢れたメロディが心にしみる。

第3楽章はゆったりとした序奏で始まるロンド・ソナタ形式。メンデルスゾーンお得意のスケルツォ的な第1主題と祝祭的な第2主題が入れ替わりながら、一气呵成に駆け抜ける。

グリンカ／歌劇「ルスランとリュドミラ」より序曲

ミハイル・グリンカ(1804～1857)は、ロシア近代音楽の父と称される作曲家だ。運輸省に勤めながら独学で作曲を試みて一定の評判を得たが、イタリアやドイツに留学して音楽を学び直すなかで、ロシアで持て囃されていた外国から持ち込まれた音楽に代わる、ロシア独自の音楽を生み出す必要性を痛感。帰国後、母国語による歌劇(オペラ)などの創作を通して、ロシア独自の音楽スタイルを生み出した。

代表作である『ルスランとリュドミラ』はロシアを代表する詩人アレクサンドル・プーシキンの原作に基づく歌劇で、悪い魔術師にさらわれたリュドミラ姫を、騎士ルスランらが救出にむかうというおとぎ話。この序曲の冒頭を飾る華やかな音楽は、オペラの最後の場面で大団円を讃える合唱からとられている。

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番 八短調 Op.18

グリンカ亡きあと、その精神を継いでロシア音楽を発展させたのが(超絶技巧のピアノ曲「イスラメイ」の作曲者として知られる)ミリィ・バラキレフとその仲間「ロシア五人組」であり、ピョートル・チャイコフスキーだった。この2つの流れを汲むのが、セルゲイ・ラフマニノフ(1873～1943)である。1897年に初演された交響曲第1番(1895)は、ラフマニノフが勝負をかけた意欲作であったにもかかわらず各方面から酷評を浴び、3年間ほど創作活動は停滞してしまう。

家族の勧めで叔母(実父の妹)が世話になっていた開業医ダーリによる催眠療法を受けることになり、「あなたは協奏曲を書き始めるでしょう……あなたはその仕事を非常にたやすく進めるでしょう……その協奏曲は申し分のないクオリティに仕上がるでしょう……」と、1900年1～4月にかけて毎日のように催眠をかけられたという。こうして生まれたのがピアノ協奏曲第2番である。感激したラフマニノフは、本作をダーリに捧げた。

第1楽章はソナタ形式で、鐘を模した和音から始まる。弦楽器による壮大な第1主題、独奏ピアノが甘く奏でる第2主題はどちらも息の長い旋律だが、展開部では短く音型が切り出され、対位的に重ね合わされながら繰り返す、再現部の冒頭でクライマックスを迎える。

第2楽章は三部形式で主部は長調、中間部は少しテンポが上がった短調となるが、両方とも同じメロディが主旋律となるのが興味深い。また中間部の終盤では短いスケルツォ風の音楽に転じる。

第3楽章は再びソナタ形式。短い序奏のあとに続いてゆく短調による第1主題、長調による第2主題が対比される。展開部を経て第2主題が再現されるが、これは偽の再現。ピアノの短いカデンツァのあと、オーケストラがハ長調で第2主題を高らかに歌い、クライマックスを迎える。

公益財団法人 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

指揮者・コンサートマスター



沼尻 竜典
音楽監督



小泉 和裕
特別客演指揮者



現田 茂夫
名誉指揮者

團 伊玖磨
桂冠芸術顧問

山田 一雄
桂冠指揮者



小林 雄太
副指揮者



石田 泰尚
首席ソロ・コンサートマスター



大江 馨
コンサートマスター

楽団員

第1
ヴァイオリン



青木 るね
フォアシューパー



奥山 佳代子



合田 知子
フォアシューパー



櫻井 純
フォアシューパー



澁谷 貴子



西原 由希子



野村 幸生
フォアシューパー



濱田 彰子



松尾 茉莉



森園 ゆり



横山 琴子

第2
ヴァイオリン



小宮 直
特別契約首席



直江 智沙子
特別契約首席



有馬 千恵



大町 滋



久米 浩介



桜田 悟
フォアシューパー



船山 嘉秋



松下 路子
フォアシューパー



門馬 尚子



山下 佳子

ヴィオラ



大島 亮
特別契約首席



池辺 真帆



高木 泰子



高野 香子
フォアシューパー



横内 一三



劉 京陽
フォアシューパー

本田 梨紗
契約団員

眞岩 紘子
契約団員

チェロ



上森 祥平
特別契約首席



倉持あづさ



迫本 章子



高木 優帆



只野 晋作
フォアシューパー



長南 牧人
フォアシューパー

久保田 佑里
契約団員

コントラバス



米長 幸一
首席



高群 誠一
フォアシューパー



林 みどり



松隈 崇宏
フォアシューパー

河村 美蘭
契約団員

フルート



江川 説子
首席



大見 幸司



窪岡 茂樹

内山 貴博
契約団員

オーボエ



古山真里江
首席



鈴木 純子
首席



紺野 菜実子

クラリネット



齋藤 雄介
首席



亀居 優斗
首席 (留学中)



安藤 友香理

ファゴット



鈴木 一成
首席



佐久間 大作

吉田 菜那子
契約団員

ホルン



坂東 裕香
首席



豊田 実加
首席



熊井 優



森 雅彦

國井 沙織
契約団員

戸田 大貴
契約団員

トランペット



林 辰則
首席



三澤 徹
契約首席



小畑 杏樹



中村 諒

トロンボーン



府川 雪野
首席



長谷川 博亮

岩石 茉奈
契約団員

バス
トロンボーン



池城 勉

チューバ



宮西 純

ティンパニ & パーカッション



篠崎 史門
首席



清水 由喜男



平尾 信幸



堀尾 尚男

金井 麻理
契約団員

インスペクター

江川 説子
長南 牧人
船山 嘉秋

ステージマネージャー

京谷 健太郎
寺門 篤之

ライブラリアン

山地 珠江
内田 映子

(2023年12月31日現在)

役員

理事長	上野 孝			
副理事長	上野 健彦			
専務理事	櫻井 龍一			
理事	飛鳥田一朗	大崎 哲郎	櫻井 龍一	
	井上 嘉久	川本 守彦	中島 正信	
	井村 浩章	草壁 悟朗	中村 行宏	
	上野 孝	小峰 直	野並 直文	
	上野 健彦	楠原 徹	原田 一之	
監事	奥津 勉	北尾 薫		
	足立 哲郎	岡村 信悟	平元 亨	
評議員	新井 鷗子	香川智佳子	前田 壽一	
	石田 麻子	金子 修司	湯川 一之	
	薄井 英男	清水 雅彦		
	薄井 恵良	瀬戸 豊彦		
名誉顧問	平野 裕			
顧問	黒岩 祐治	福田 紀彦	寺澤 辰磨	
	山中 竹春	植木 浩		
参与	黒田圭次郎			
音楽参与	大橋 晃一			

事務局

事務長	櫻井 龍一(専務理事兼任)
音楽主幹	楠原 徹(業務執行理事兼任)
事業推進部	澤木 泰成(部長)
企画・制作グループ	林 大介(課長・企画制作)
	鎌形 昌平(課長・企画制作)
	青木 萌衣(制作)
	篠田 知恵(制作)
	山本未央子(制作)
	梅咲安紗子(営業デスク・制作)
森 寿恵(営業デスク・制作)	
マーケティンググループ	田賀浩一郎(課長・マーケティング全般)
	橋本 恵美(広報制作)
演奏事業グループ	寺門 篤之(課長・ステージマネージャー)
	京谷健太郎(主任・ステージマネージャー)
	山地 珠江(ライブラリアン)
	内田 映子(ライブラリアン)
総務・経理部	若本 憲助(部長)
	藤瀨 映子(課長)
	小川 孝代(主任)
渉外部	澤木 泰成(部長・兼務)
	小出 江利
	飯田 陽子
アートホール事業部	馬場 洋一(部長)
	深澤 剛(課長)
	立石 圭子
	竹川 文乃

(2024年1月1日現在)

SONORITÉ 2023-2024 (そのりて 県民名曲シリーズ)

第299号(通巻396号) 2024年1月6日発行

発行/公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団

〒231-0023 横浜市中区山下町46番地 第1上野ビル1階

TEL 045-226-5045 FAX 045-663-9338 HP www.kanaphil.or.jp

X @kanagawaphil Instagram www.instagram.com/kanagawaphil/

Facebook www.facebook.com/kanaphil/ ホームページでは随時情報を更新しております。是非ご覧ください。

印刷・デザイン: 榎野毛印刷社

SONORITÉ(そのりて)とは「ひびき」を意味するフランス語。当楽団発足当時のキャッチフレーズ「響きあう未来」にちなんだタイトルです。